

第 1 回伊野町・吾北村・本川村合併協議会 新町将来構想策定小委員会会議録

【日 時】 平成 1 5 年 2 月 2 8 日 (金) 午後 3 時 ~ 午後 5 時 5 分

【場 所】 吾北村中央公民館 2 階大ホール

【出席者】

小委員会委員

	伊野町	吾北村	本川村
学識経験者	岡 健市	筒井 静一	中平 一三
	土居美代子	弘瀬 和子	山中千代子
	佐藤 廣志	北川 一海	伊東 誠
	欠 席	中岡 孝幸	川村 明人

幹事会

岡林 正憲	筒井 正典	松本 健市
-------	-------	-------

事務局

本山 博文	氏原 憲明	別役 理佳
土居内淳一	天野 里香	津野 加奈

傍聴人 1 人

【欠席者】

小委員会委員

山本 高裕

【 1 開会 午後 3 時】

事務局長：第 1 回新町将来構想策定小委員会の開会を宣告。

小委員会規程第 5 条第 3 項では、委員長が、会議の議長となる旨が定められているが、まだ、決まってないので、委員長が選出されるまでの間、事務局の方で議事の進行をする旨了解を願う。

本日の出席委員は 11 人で、当小委員会の委員数 12 名のうち 3 分の 2 以上の出席があり、伊野町・吾北村・本川村合併協議会規約第 10 条第 1 項の規定により当小委員会が成立していることを報告。

【 2 委員長、副委員長の選出】

事務局長：会議に先立ち、当小委員会の委員長及び副委員長を選出させていただく。

小委員会規程第 4 条第 1 項では、小委員会に、それぞれ委員長及び副委員長 1 人を置き、小委員会の委員の互選によってこれを定めることになっているが、先の議会議員定数等検討小委員会で規約の一部改正の提案があり、各小委員会に副委員長を 2 名以内という意見があり、次回協議会で諮ることになった。その旨含んで各委員の皆さんがお話し合いの上で、決めていただければありがたい。委員長の選出をお願いする。

北川委員：選考委員を作って選考してはどうか？

事務局長：北川委員の意見でいかがか問う。

<了 承>

事務局長：選考委員は各町村の委員さんの中から選んでいただきたい。

【休憩 午後 3 時 4 分～ 3 時 5 分】

<各町村 1 名ずつ選出して協議>

北川委員：委員長に伊野町岡健市委員、副委員長に吾北村筒井静一委員と本川村伊東誠委員を選考した旨、報告。

【休憩 午後 3 時 5 分～ 3 時 7 分】

事務局長：正、副委員長に、挨拶を願う。

正、副委員長 「あいさつ」

事務局長：進行を委員長に代わる。

【 3 会議録署名委員の指名】

委員長：会議録署名委員の指名を行う。

伊野町土居委員、佐藤委員を指名。

【 4 議 題】

委員長：議題に移る前に、関係者の出席について諮る。

小委員会規程第6条で、委員長は、必要に応じて関係者等の出席を求め、説明又は意見を聴取することができることと定められている。

この小委員会で策定する新町将来構想は、合併後の新町の将来像や方向性を定める極めて重要なもので、合併後には、この構想に基づいて、具体的に施策を推進して頂かなければならないので、12名の委員に加えて、3町村の助役に、協議の場に加わって頂き、行政の立場で助言や考えを述べて頂いてはと考えるがいかがか諮る。

<異議なし>

<助役 委員席に着席>

委員長：議題に移る。

2月18日に開催された、第2回協議会において、当小委員会へ諮問する事項が決まっている。新町将来構想に関して、6月の協議会に、調整した案を報告しなければならないので、議事の進行について皆様のご協力を願う。

事務局から、今後の協議の進め方について説明を求める。

計画班長：今回は、各町村の振興計画の説明。2回目に事務局案の提案。6月の協議会に提出予定。

委員長：事務局の説明に関して、質問はないか問う。

<なしの声>

委員長：各町村から振興計画についての説明を求める。

<伊野町：岡林総務課長説明>

委員長：質疑については、3町村から説明が終わった後に受ける旨告げる。

<吾北村：筒井総務課長説明>

<本川村：本山企画振興課長説明>

【休憩 午後4時16分～4時24分】

委員長：3町村から説明のあったことについて質問はないか問う。

中平委員：伊野町に質問。

音竹に行く途中の工事は何の工事課？

池ノ内から仁淀病院へ出てくる道はいつ完成か？

岡林課長：宇治川放水路の工事。また、池ノ内からの農免道路は、県工事で平成17年度完成予定と聞いている。

中平委員：音竹から左手の旧道の改修工事は？

岡林課長：県道南環状線の拡幅工事。

北川委員：それぞれ、3町村とも実態に即した計画がされていることがわかった。合併の具体的なハード面の計画について、これから詰めていかねばならないと思うが、それはいつ頃できるのか、どういう順序で説明していくのか？

計画班長：建設計画の策定は、二つのステップに分けて計画を策定していくことを考えている。

一つ目は、小委員会で将来構想を議論していただく。新しい町の方向性を定めていただく。それができた段階で、次のステップとして具体の事業（ハード事業、新し

い町の新しいソフト事業の実施など)については、6月以降の全体の協議会の場で協議をしていくということになる。

具体の事業については各町村とこれから協議をしていくことになる。現行の振興計画に盛り込まれている事業についても洗い出しをして、合併後の新しい事業についても各町村と協議をしていく。専門部会で議論をして、それを幹事会で議論をして、協議会に提案して、議論をしていただきたいと考えている。

佐藤委員：3町村の共通点として、人口の減少傾向にある。その中で、これからの町づくりのためには若い人の活性化が必要と考える。人口減の歯止め策として各役所の取り組みをうかがいたい。

伊野町上田助役：伊野町では、新興住宅地として天王ニュータウンに4500人ほどの人口があるが、現状は旧伊野町内から天王へ異動したケースも多く、人口減の歯止め策は大きな問題であると認識しているが、今すぐの具体施策は難しい。

吾北村和田助役：結論から言うと、プラスに転じることは困難である。人間が生活していくうえの条件として、住む場所の有無、仕事をする場所の有無がある。そのためには人口増にはならなくても人口減を少しでも小さくする施策としては、交通網の整備が大切と考える。

合併した一つの町だけで、生活条件が全てそろわわけではないので、幹線道路の194号線、439号線の整備、改修、それに付随する道路網の整備が必要で、そのことは産業の振興につながり、通過人口が増えれば収入増につながる。この辺にヒントがありはしないかと考える。

本川村松本課長：村として人口増につながる施策はいろいろしてきた。194号線寒風山トンネルが貫通したときに、人口が流出してはいけないということで、何とか立ち止まる施設をということで、道の駅「木の香温泉」を作り、そこに集約されるようなかっことで、就職の場も求めてきた。

観光面では、都市との交流事業として「氷室まつり」もやっているが、地元の者だけではできなくなり、町の人が手伝ってくれてやっているが、そこへ定着をして人が増えるところまでは至っていない。

中平委員：学校の問題で、本川村は変わった取り組みをしているが、その説明をお願いしたい。

本山課長：三つあった中学校を一つに統合をしたが、人口の高齢化に伴い生徒数が減少し、地元の子供だけではやっていけないということで、留学制度を採用して中学1、2年生を全国から募集をして、今、現在11名ほど中学生がいるが、今年6名ほどが入学するという事になっている。中学校を存続するのにも地元の子供だけでは危惧する状態である。完全寮制であるので、教育面には大きな資金を投じているというのが現状。

和田助役：合併したら南も北も玄関となる。3町村が一つになり大きな夢を描きたい。

上田助役：伊野の場合、土地区画整理や企業誘致の計画をしても不景気の中で難しい状況にある。しかし、将来の方向性を示すうえでは、やはり人口増が大事であると考え。

北川委員：人口増も大事だが、新町になって、今現在、住んでいる人がこの町に住んでよかったという、町づくりをしてほしい。

上田助役：3町村の振興計画の説明を聞いて気がついたことだが、それぞれの地域の現

状がベースになってまとめているものだと思う。そういう中で、小委員会の目的は、新しい町づくりの共通の課題、項目、3町村で共通してできることとかを話し合い、まとめていってはどうかと思う。

川村委員：振興計画とか施策を聞いたが、現実にはそれぞれの町村を見てないのでピンとこない所があるので、出来れば小委員会で各町村の現状を見てみて、それから議論したら自分たちの町の現実の問題として実感が湧くのではないかと思うがいかがか。

事務局長：小委員会の方で各町村の現状を視察したいということであれば、事務局の方で日程を調整させていただく。

委員長：提案のあった各町村の現状を視察することについてはどうか問う。

北川委員：何を視察するか？

事務局長：今の町村の現状が、振興計画等の冊子の中では分かりづらいので実態を見ないとわからないということであろうと思う。

北川委員：今の現状を見て回ってもどういう意味があるか？日期的にはどうか？

計画班長：3月は各町村議会があるので、実状をみるとなると土、日曜日とかになってくるだろう。1日近くかかる事になると考える。

北川委員：異議はない。具体的にどういうところを視察するか案はあるか？

事務局長：各町村がそれぞれに力を入れてやっている所はどうか。

例えば、本川村なら木の香温泉、固定資産税額の大きい四電の施設、山岳観光を目指しているスカイライン等をみれば概ね本川の実態がわかるのではないかと思う。

北川委員：ポイントポイントを押さえてなら意味がある。

事務局次長：専門部会でも意見が出されていた野菜のリレー栽培等の意見も出されており、その候補地等もあわせて見ていくとか、それぞれの町村に出していただき事務局の方で日程を調整させていただきたい。

北川委員：社会福祉協議会の合併もあるので福祉団体施設等の見学も良いのではないか？

北川委員：青少年の健全育成という意味で新町の施設としてドームを建設するとか……

中平委員：夢としてはいろいろいいが、本川の間人は伊野のことをあまりよく分からないので、噂話しか聞いてないが、もしサニーマートが移転するならば、その跡地に交通ターミナルを造り駅と、電車とバスが同じところから乗り入れをしたらどうかと考える。夢であるか現実であるか分からないのだが。

合併したらどうなるかという構想、建物でなくて、きめ細かなサービスが受けられなくなるのではないかと、村民の声が長に届かなくなるのではないかと、僻地はなおさら僻地になって、中央はなおさら中央になってという格差がある。そういう部分の心配を多々耳にする。いいことはいい、悪いことは悪いで、悪いことを少しでもいい方へ持っていってもらいたいと思う。

施設を見に行くとかもいいだろうが、お互いにきめ細かなサービスが受けられるようになるような、そういう構想はまだできていないのか？

事務局長：もちろん将来構想の中で、福祉のサービス低下を防ぐにはどうしたらよいか、専門職の配置はどうするかなど、細かなことまで決まっていくので皆さん方から大きな構想を出していただければありがたい。

北川委員：局長の言うことも分かるが、我々は専門職じゃないので、我々の意見をまと

めて事務局から提案してほしい。

計画班長：2回目に事務局からたたき台のほうを提出させていただく。

北川委員：了解。

委員長：事務局から、今後の協議スケジュールなどについて説明を求める。

計画班長：6月の協議会に小委員会として報告。

各町村視察についてご提案があったので、3月中の早い段階で調整する。場合によっては土、日の休みの日になろうかと思うがいかがか。

<第3日曜は都合が悪いとの声あり>

計画班長：事務局の方で日程調整させていただく。町村の現状をまず見たうえで、第2回目の小委員会をその後に開くということで調整させていただく。

委員長：閉会を宣言。

【5 閉会 午後5時5分】

上記会議の顛末を記載してその相違ないことを証するためここに署名する。

平成 年 月 日

委員長

署名委員

署名委員